

ハラビロハンミョウ

Lophyridia angulata niponensis (Bates)
コウチュウ目・オサムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

各県で絶滅あるいは危惧されている。本県では1978年に記録されて以降、極めて稀に確認されているが、今回の調査では確認できておらず、絶滅が危惧される。

種の特徴

体長15mm以下。背面は光沢のない黒色で、上翅に横帯の紋を持つ。メスは上翅の側縁中央が張り出す。同時に生息するヒメ(エリザ)ハンミョウに類似するが横帯の紋は太く短い。海岸の河口部や砂丘に生息する。活発に歩行・飛翔し、成虫・幼虫ともに捕食性で小昆虫等を捕らえる。

分布

本州、九州と属島の、日本海側に連続的に分布するが太平洋側では稀。本県では坂井市三国町池見で記録がある。三里浜での情報もあるが、他種と混同されている可能性がある。

生息を脅かす要因

河川改修等による河川敷の改変や海岸の砂浜の消失による生息地の減少、娯楽や清掃の車乗り入れも脅威となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1985)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						

シマゲンゴロウ

Prodaticus bowringii Clark
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

福井県産動物の中で最も絶滅の危険が高い種の一つで、近年県内で急速に姿を消した。2016年の福井県版レッドデータ改定に際した野外調査では生息が確認されず、既に県内絶滅している可能性もある。

種の特徴

体長12~14mm。中型ゲンゴロウの一種。左右の上翅がそれぞれ2本の黄褐色の美しい筋模様を持つ。主にため池や湿地に生息する。幼虫は捕食性、成虫は動物の死骸等を集まる。

分布

本来は国内のほぼ日本全域に分布するが、姿を消した地域も多い。福井県では2000年代前半は嶺南の複数個所で生息が確認されていたが、現在は確実な生息地は知られていない。

生息を脅かす要因

愛好者による捕獲圧や、ため池の消失、アメリカザリガニやオオクチバス等の侵略的外来種の増大、農薬散布による生息環境悪化等が挙げられる。

参考文献 環境省 (2015)、森・北山 (1993)、上野ら (1985)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○		○												○

オオイチモンジシマゲンゴロウ

Hydaticus conspersus Rēgimbart
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

県内では戦前に旧坂井町で記録があるのみ。今回の調査では、本種の確認には至らなかった。近隣の京都府で最近でも採集記録があり、滋賀県にも生息することから、本県でも生存の可能性はある。

種の特徴

体長16~17mm。体形はやや長い卵形で、背面はやや扁平。頭部と前胸背板は黄褐色、上翅は黒色で特有の斑紋を有する。平野部~低山地の樹林において、湧水のある水質が良好で、かつ植生豊かな池沼や湿地の水たまり、弱い流れの浅い細流に生息する。

分布

本州(秋田県、山形県、宮城県、群馬県、栃木県、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、福井県、滋賀県、京都府)に分布。県内では旧坂井町(坂井郡木部村)で戦前の記録があるのみ。

生息を脅かす要因

開発による池沼、湿地の消失や圃場整備、農薬散布、水質汚濁等の影響で、生息地が失われたものと考えられる。

参考文献 福井県博物学会 (1938)、環境省 (2015)、京都府自然環境保全課 (2015)、森・北山 (2002)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						